

ことから、今後、二酸化炭素排出量の大幅削減が可能な新エネルギー<sup>※1</sup>の導入を促進していく必要があります。

さらに、二酸化炭素吸収源として大きな役割を持つ森林について、整備・保全を図るとともに、化石燃料の使用の抑制と二酸化炭素の排出削減にもつながる木材の利用を促進する必要があります。

## ■オゾン層の破壊

地上約1～5万メートル上空の成層圏を中心に分布し、地球を取り巻くオゾン層は、太陽光に含まれる有害な紫外線の大部分を吸収し、われわれ生物を守っています。

ところが、近年、観測が進み、冷蔵庫・エアコン等の冷媒や工業用の洗浄剤などとして広く利用されてきたフロンによって、このオゾン層が破壊されつつあることが明らかになりました。

このため、オゾン層の破壊力がもっとも大きいクロロフルオロカーボン（CFC）などの特定フロン<sup>※2</sup>の生産が1995年末をもって全廃となり、その他のフロンについても段階的に削減されることになりました。しかし、冷蔵庫やエアコン等に充填されたままのフロンについては、これまで回収・破壊の法的義務がなく、自治体や事業者の自主的な取組みにゆだねられてきました。

本県においては、平成7年8月に「福井県フロン回収推進会議」を設置し、平成9年4月からフロン回収協力事業所の認定制度を開始するなど、これまでフロンの適正な回収・処理の体制の整備に取り組んできました。

表3-3-6 フロン回収の現状（平成12年度）

（ ）内は全国値

対象機器	回収実績(ト)	推定回収可能量(ト)	推定回収率(%)
業務用冷凍空調機	5.7(869)	10.0(1,536)	57(57)
カーエアコン(破壊量)	0.6(145)	8.9(1,103)	7(13)
家庭用冷蔵庫	0.8(126)	3.1(465)	26(27)

平成13年4月に家電リサイクル法<sup>※3</sup>が施行され、冷蔵庫とエアコンのフロン回収については、家電4品目のリサイクルの一環として、家電製造業者が担うこととなり

※1 新エネルギー：石油・石炭・天然ガス・原子力・水力等のエネルギー源に対して、今後の研究開発や導入が期待されるもののことを言い、具体的には、太陽エネルギー・風力エネルギー・燃料電池などを指す。

※2 特定フロン：オゾン層破壊の最大原因として、モントリオール議定書に基づき、1996年で全廃となったフロン。CFC-11、12、113、114、115の5種類のクロロフルオロカーボンを指す。

※3 家電リサイクル法（特定家庭用機器再商品化法）：テレビ・冷蔵庫・エアコン・洗濯機の家電4品目について、家電製品の製造・利用事業者などに、廃家電製品の回収・リサイクルとあわせて、冷蔵庫とエアコンの冷媒としてのフロンの回収を義務付けた法律

ました。また、同年6月には、フロン回収破壊法<sup>※1</sup>が制定され、平成14年4月からは、知事に登録された業者が、業務用冷凍空調機やカーエアコンからのフロン回収を行うように体制が整備されました。

## ■酸性雨<sup>※2</sup>

酸性雨は、1960年代から、北米や欧州で、湖沼や森林等の生態系などに大きな影響を及ぼすとして問題化してきましたが、県内では、今のところ、酸性雨による土壌・植生、陸水等への影響について、明確な兆候は認められていません。

なお、現在、県内4地点で、調査が継続されており、降雨の年平均pHは、4.4～4.7と経年的な変化はないものの酸性化しており、国の第3次酸性雨対策調査における全国平均pHの4.8よりやや低い状況にあります。また、酸性雨の原因物質である硫酸イオン<sup>※3</sup>等の降下量は、各地点とも、冬季に多くなる傾向が認められています。

また、周辺に湖水の酸性化に影響を与える火山等の自然的要因や人為的要因が見当たらない夜叉ヶ池(今庄町)の湖水のpHは4.9～6.1(昭和61年～平成12年)の範囲にあり、酸性雨による影響が生じている可能性も考えられる状況となっています。

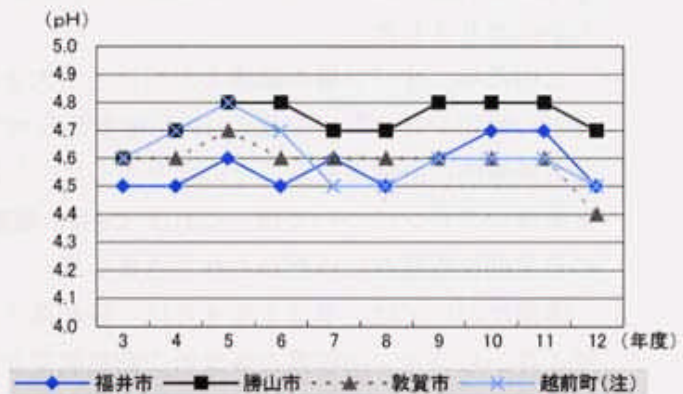


図3-3-7 酸性雨の現状

(注) 平成6年度までは越前村での調査データ

※1 フロン回収破壊法(特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律):業務用冷凍空調機(冷蔵または冷凍の機能を有する自動販売機を含む。)とカーエアコンに使用されているフロンの回収と破壊を義務付けた法律で、登録業者がその回収業務にあたる仕組みになっている。

※2 酸性雨:雨は本来、空気中の二酸化炭素を吸収することにより弱酸性を呈する(理論値はpH5.6)が、化石燃料等の燃焼に伴い発生する硫黄酸化物や窒素酸化物を取り込むことによって、より強い酸性に変化した雨のこと。

※3 硫酸イオン:電解質例えば塩化ナトリウムは、水溶液中で、ナトリウム陽イオンおよび塩素陰イオンとして存在する。ちなみに硫酸イオンは陰イオンである。このように、水溶性のイオンが存在することで、溶液(雨も溶液である。)が酸性になったりアルカリ性になったりする。